

環境保護印刷推進協議会（E3PA）

15年の歩み  
【別冊バージョン】

## 〈E3PA15年の歩み〉を顧みて

報道機関による 松浦会長へのインタビューより



編集・文責『15年の歩み』編集委員会

## はしがき

環境保護印刷推進協議会は2005年度(平成17年度)に数名の業界有志により、自己適合宣言マーク「環境保護印刷マーク《クリオネマーク》」を制定し、環境保護をめざす任意団体として発足、以来、今年度で創立15周年を迎えました。

これまで歴史を重ねてきた当協議会の15年間にわたる事業活動のあらましを記録して小冊子『15年の歩み』にまとめました。多種多彩な「環境保護」に関する実施事業の実績、成果を「報告書」風にまとめてみたものです。

さきごろ印刷業界の報道機関から、この15年間に及ぶ協議会運営について、事業活動を牽引してきた松浦豊会長に「< E3PA 15年の歩み>を顧みて」と題したインタビューが行われました。

私ども『15年の歩み』編集委員会も同席して【筆記】を致しました。本稿は、「15年」の足跡を小冊子『15年の歩み』とは別の【別冊バージョン】としてまとめ、皆さんに配布することといたしました。

2020年12月

2

## ◇創成期

——環境保護印刷推進協議会の設立は2005年(平成17年)秋のことでした。

——当時は、大気汚染防止法が改正されて、工場や事業所から排出される揮発性有機化合物(VOC)の量規制が義務づけられていました。印刷業界でもVOC低減を可能にする具体的な対策を迫られる状況となっていました。水質汚濁防止法を遵守して廃液・排水を出さないことを合わせて、印刷物の製造工程でゼロエミッションを達成することが、サステナブル社会の実現に向けた印刷会社のCSR(社会的責任)となって浮上してきた時

代だったのです。

——このような時代背景のもと、「空気」と「水」を汚さない製造方法によって、刷版～印刷という本工程で環境保護を実現していくという思いから、環境保護印刷推進協議会(E3PA)を発足させました。基本的な目的は「環境保護印刷に関する技術の向上・普及によって、地球環境の保全と印刷の生産性向上、品質向上との両立をはかり、印刷産業全体のサステナブルな発展を推進する」というものでした。

——具体的な目標として掲げたのが、澄んだ「空気」のための《Non-VOC》、きれいな「水」のための《Non-DRAIN》でした。Non-VOC/Non-DRAINを追求すること自

体、Low-CO<sub>2</sub>を実践していくことに結びつくのですが、後に改訂した認証基準リストにはあえて「環境負荷低減貢献」の欄を設け、工程・資機材などの項目がCO<sub>2</sub>削減イコール地球温暖化抑制に寄与しているかを明示しています。

——それと同時に、環境保護に適合する印刷物に表示できる自己適合宣言マークとして『クリオネマーク』をつくり、まず枚葉オフセット印刷方式を対象とする独自の「認証制度」を制定しました。かつ到達度に応じて三段階のステータスを設けることで、自ら厳格に運用することにしたのです。

——環境保護に役立つ最新鋭の印刷設備を

開発していたメーカー各社にも、協賛会員として加わっていただき、印刷産業挙げて取り組めたことを誇りに思い、感謝しています。後年、認証登録基準を隨時、厳正な内容に衣替えし、認証基準の高度化をはかることができたのも、メーカー各社の技術開発なくしてあり得ないことでした。こうした仕組みは、一般社会や顧客各位から高い評価を得るところとなり、大きな成果を挙げられたと自負しています。意味ある挑戦だったと思っています。

——実際の事業活動については創立以来一貫して、環境対応をベースにしたビジネス戦略をテーマとした会員向けのクリオネセミナー、広く印刷業界に門戸を開いた各種の講

---

演会、全国各地の印刷機材展や環境専門展への出展、さらには毎年のように発行してきた多彩な印刷媒体を通して、認証登録基準の普及と会員企業の拡大、そして当協議会が掲げた認証制度の一層の浸透に努めてきました。

——認証制度について触れると、その適用範囲を、排気ガスの削減も認証基準に加えたオフ輪印刷方式、根本的に環境負荷の小さいデジタル印刷方式、電力使用量の低減を切り口としたCO<sub>2</sub>削減貢献度の領域にまで広げ、先行するオフセット印刷バージョンと合わせて三本柱を確立しました。さらには、印刷設備をもたない印刷会社も対象とした「准会員制度」を導入しています。とくにCO<sub>2</sub>削減に対する貢献にまで視野を広げたこと

は、地球温暖化防止を呼ばれている時代の要請を先取した活動といってよいでしょう。顧客のご理解を得るうえで非常に有効だったと思います。

——こうした数々の活動を重ねた結果、VOCや廃液の排出を自主規制することを誓った会員企業が、環境貢献の意思を広く社会一般に示していただける強固な土壌を確立することができたと考えています。印刷業界における環境保護の方向に一石を投じ、それなりの重要な役割を果たせたのではないでしょうか。

—平成20年代に入ってからは、グローバル化の波に乗って各種の国際交流に取り組んだことも忘れられません。最初に、韓国の印刷業界と連携し両国間を相互に訪問し合って現地で「日韓・親環境フォーラム」の開催を実現させました。これを皮切りに、中国でも同様の環境フォーラムに参加するとともに、ドイツやイギリスとの積極的な交流を通じて「日欧・環境フォーラム」を国内で成功させたなど、果敢に取り組みました。そこでテーマも大局観に満ちた諸問題を取り上げることとなり、世界の動きを肌感覚で学ぶことができました。これらは大変、有意義なイベント

だったと今にして想い起します。

—創立10周年を迎えた平成26年度に、対外的宣言として業界初の「印刷環境憲章」を策定したことでも特筆してよい事業だと思っています。印刷産業が環境保護に尽くしている姿を社会の方々に知っていただこうという趣旨から定めたものです。この憲章には、空気と水を汚さないこと、地球温暖化を防ぐこと、省エネやリサイクル化を推進することなどの重要性を訴え、そのうえで、サステナブル社会の実現への参画により、印刷会社のCSRを果たしていく旨が書き込まれています。環境保護に取り組む印刷会社の基本理念と行動規範が掲げられていることから、環境貢献の取り組みを社会や顧客に広く知つてもらう効果、換言すれば、印刷会社としての存在意義

を高めるという大いなる効果があったと考えています。

—採択した「印刷環境憲章」に掲げた趣旨をより一層、徹底させるため、印刷製品は環境にやさしいメディアであることを説いたプレゼン資料、その他の普及啓蒙用の媒体を数多く作成しました。当協議会の認証制度が印刷会社の＜環境経営＞に有益であることを強調し、受注機会の拡大につなげてきました。

—そんなとき、CSRが従来以上に強く呼ばれるようになりました。そして、環境対応を経営のレベルにまで高めることの重要性も指摘されました。そこで、環境保護印刷推進協議会として＜環境経営＞という理念を採用

することにしたのです。たんに公害防止あるいは法令遵守の域に止めず、環境に寄与する姿勢を企業のブランド価値にまでつなげなければ、印刷会社の存在意義はないはずです。環境保護活動そのものの持続的な力は発揮されないという懸念が根底にありました。これを機に今日に至るまで、CSR、ブランディング、SDGsなどへの関心を深めていったわけです。

—＜環境経営＞を推進してきた会員企業が、効果的にCSRを果たせるようにと、事業計画の柱の一つとして「クリオネマークのブランディング確立」を掲げました。環境保護印刷マークである「クリオネマーク」がもつ＜環境貢献＞の価値を高め、合わせて、当協

議会および会員企業の存在を内外に浸透させていくというのがその目的でした。環境保護の取り組みを戦略的にビジネス価値に結び付けて＜環境経営＞のレベルにまで高める必要があったのです。印刷会社の企業価値を高めるためには何よりブランディング活動が重要であることを学んだのも、この時期でした。CSRをビジネス戦略として活かすための方法を知ることができたといえます。

——こうして改めて振り返ってみれば、当協議会は、創立以来＜環境経営＞の考え方を現実の経営戦略に組み込んで、＜環境貢献＞の企業姿勢を顧客に示していくことを基本に、「クリオネマーク」の運用を柱とする各種の事業を開拓してきたことがよくわかりま

す。根底となるCSRの土台のうえに公害防止、環境対策、環境保護さらに環境貢献の流れを置き、それをビジネスとして可能にする＜環境経営＞を容易に実践できるようにと、さまざまな活動をおこなってきたといってよいでしょう。

## ◇成熟期

——平成30年度を迎え、この年を境に再び原点に返って「環境保護印刷マークの発行・運用機関」としての性格を強めることとしました。これは、認証制度の制定と普及をはかつててきた創生期(平成17年度から22年度まで)、＜環境貢献＞の実際を学んできた安定期(平成23年度から29年度まで)を経て、協議会として新たな方向性と役割を見出すべき成熟期(第三段階)に入ったとの認識に基づくものです。「クリオネマーク」の意義と認証制度の維持をはかりながら、これからも環境保護活動を通じて印刷会社に課せられたCSRの達成度を引き上げていこうと、新たな歩みを

始めています。

——実際に、基幹事業に集中的かつ積極的に取り組んでいくこととし、その拠りどころとして国連が採択している持続可能な開発目標「SDGs」に着目しました。環境保護に関連する各ゴールに印刷会社として協力していく姿勢を打ち出したわけです。SDGsは顧客企業も重視している共通のテーマであり、これを根底に置いた＜環境貢献＞は会員企業が実行中のCSRのレベルを高め、延いては印刷ビジネスの発展にも寄与するという考え方には沿ったものです。

——その後2年余、何回か開催した講演会やセミナーでこの問題をテーマに掲げるととも

に、「私たちは [SDGs 視点] で環境貢献しています」を表題とする顧客向け提案営業用の小冊子を制作するなどしました。そこでは、環境保護を SDGs の柱に据えて関連する 7 ゴールの実現に協力していることを強調しました。当協議会が重視する〈澄んだ空気〉と〈きれいな水〉、CO<sub>2</sub> 削減、森林再生はもちろんのこと、最新の印刷技術の採用によって「高い生産性で働きがいを」といった、SDGs が掲げる根源の理念にも触れているのが特徴です。

——繰り返しますが、私たちは《澄んだ空気 / きれいな水》をキーワードに、各種の認証制度を設けて環境保護のための明確な達成基準を定め、顧客各位とともに SDGs に加

われる条件を整えています。印刷製品の製作に伴って発生する環境に対する影響をしっかりと把握し、環境負荷を低減する努力を怠ってはならないと自認しています。環境にやさしい印刷製品によって社会の発展に寄与する当事者ならではの役目を果たすことが不可欠です。顧客各位と一緒に実践してきたと考えています。

——顧みまして、これまで、さまざまな情報提供に努め、所期の成果を収めらましたのも、ひとえに、会員各位をはじめ印刷業界各方面の皆さまの温かいご理解とご支援の賜と、厚く御礼申し上げます。

## むすび

環境保護印刷推進協議会は現在、「環境保護印刷マークの発行・運用機関」に立ち返り、認証制度の維持ならびにクリオネマークの管理に力点を置いた組織として、基幹となる事業活動に集中的に取り組んでいますが、そうしたなかで創立 15 周年を迎えることができましたことは喜びに耐えません。この間、当協議会が印刷業界において確たる地歩を築き、印刷業界における環境保護思想の牽引役を担うと同時に、一定の役割を果たせたことに深甚の思いがいたします。



編集・文責『15年の歩み』編集委員会

環境保護印刷推進協議会は



創立15周年を迎えました

Eco-Printing Preservation Promotion Association  
Web:[www.e3pa.com](http://www.e3pa.com) / E-mail:[info@e3pa.com](mailto:info@e3pa.com)



E3PA 環境保護印刷推進協議会

検索



(事務局)〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷新聞社内 TEL.03-3553-5681FAX.03-3553-5684